

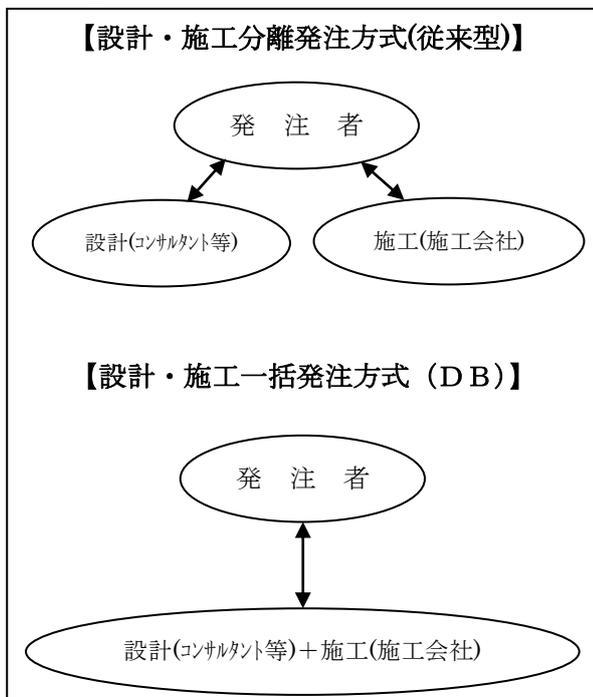
Q DB（デザインビルド）について

A

1. 背景

公共工事においては、昭和34年に国土交通省事務次官通達により「設計・施工分離の原則」が明確化され、設計と施工を別々の主体(企業等)で実施することにより、設計のチェック・品質確保・コスト管理を図ることを基本としています。

一方、近年では、受注者が有する新技術などの活用によりコスト縮減、工期短縮が図れ、また、設計内容の熟知による高精度・高品質が期待でき、設計・施工の責任所在も明確になる「設計・施工一括発注方式(DB:デザインビルド)」が注目されています。



2. メリット・デメリット

DBのメリット、デメリットについて以下に示します。

(1) メリット

- ① 設計施工の責任の所在が明確になる。
- ② 発注者の調整業務を軽減できる。
- ③ 設計及び施工期間の短縮が期待できる。
- ④ 設計当初から施工の専門家がかかわることによってコスト縮減、時間削減が期待できる。
- ⑤ 受注者側に設計に関わるリスクを移転できる。

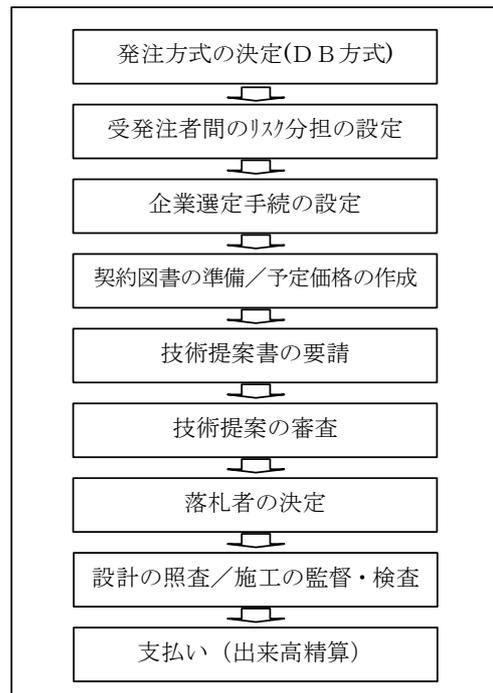
⑥ 事業の早期段階で事業費を固めることができる。

(2) デメリット

- ① チェック。バランス機能が働きにくい。
- ② 初期段階で設計基準が明確でないため、完成後に発注者が失望したり、各当事者間で紛争を招きやすい。
- ③ 発注者の係り合いの薄い分だけ、結果がその期待に沿わないことがあり得る。
- ④ 受注者の選定前に完全で明確な条件を要求しないと、プロジェクト後期に設計要求条件の変更は困難であり、できた場合でも高価となる。
- ⑤ 工期延伸の理由を発注者が分かりにくい。

3. DBの実施フロー

DBで想定される一般的な業務の流れを下図に示



します。

図 DB方式の実施フロー

(出典：水道技術ジャーナル 2011年1月)

※参考文献

「設計・施工一括発注方式導入検討委員会報告書 (平成13年3月)」